

「あは♥ おじ様危ないですわ。こんな人気のない路地裏にいたら私みたいな怖〜いスライム娘に
襲われてしまいますよ〜♥」

「こんな風にく、捕まえてく、服を溶かしてく、一方的に犯されてしまいますよ〜♥
ほらほらほらあ〜♥」



「あ♡ おちんちんぴくぴくしてきました♡ もう出そうですか？ 良いですよ
おじ様のおちんぼミルク、私の中に下さいませ♡」

「ほくほくぴゅぴゅぴゅぴゅぴゅぴゅぴゅぴゅぴゅぴゅぴゅぴゅぴゅぴゅぴゅぴゅ…♡」



「あん♥ 出たあ♥ おじ様のおちんぼミルクう…、私のお腹を突き抜けて胸のあたりまで出てますわあ♥」

「そんなに私のロリスライムほでいがお気に召したのですか？ ほらあ♥ 全部出してくださいな♥」

びゅん

びゅん

びゅん



「おじ様のまだ硬いままです♥ 良いですよ、気がお済になるまで存分に私の膈内を堪能して下さいな♥」

「おじ様のタマタマからおちんぼミルクが枯れるまで搾ってあげますわ♥
そしてミルクが尽きたら…ふふ♥」



「ふふ♥とうとうおじ様のおちんぼミルクが
尽きてしまったようです♥でも私、まだ満足していません…」
「だからおじ様をこのままドロドロに溶かして、
おじ様自身をおちんぼミルクとしてしまいます♥」

「さあ、おじ様♥私のおまんこの中に…
入ってきてくださいな♥」



「あん♥おじ様…来たあ♥おまんこの中に…入ってきましたのおお腹の中におじ様が入ってきてるう♥」

「おちんちんカチカチで…びくびくしてて…おじ様も気持ち良いんですのよね♥男の人は皆そうですから…」

「さあ、一番奥まで…おじ様の事を、おまんこで食べさせてくださいませえ♥」



「あ、ふあ♡ も、もう…だめ♡ な、なんか、漏れちゃうぅ〜//」おっ♡ もう限界か〜？」

たば♡

たば♡

たば♡

たば♡

たば♡

「いいぞ、そのままお姉さんのおっぱいの中に漏れちゃえ♡」「あひゃん♡ らめええええ♡」



「あは♡
出たあ♡」

「ほう♡」

びゅん♡
ゅん♡

と♡

と♡
と♡

♡♡

♡

♡♡

♡



「くふふふ♡ 男の子だなく、こんなにお姉さんのおっぱいに漏らしてえ♡ ほれほれ♡」

「らめええええ♡ 許してええええ♡ あううううう…♡」

たは♡

びゅ♡

びゅ♡

びゅ♡

たは♡

たは♡

たは♡

たは♡

END



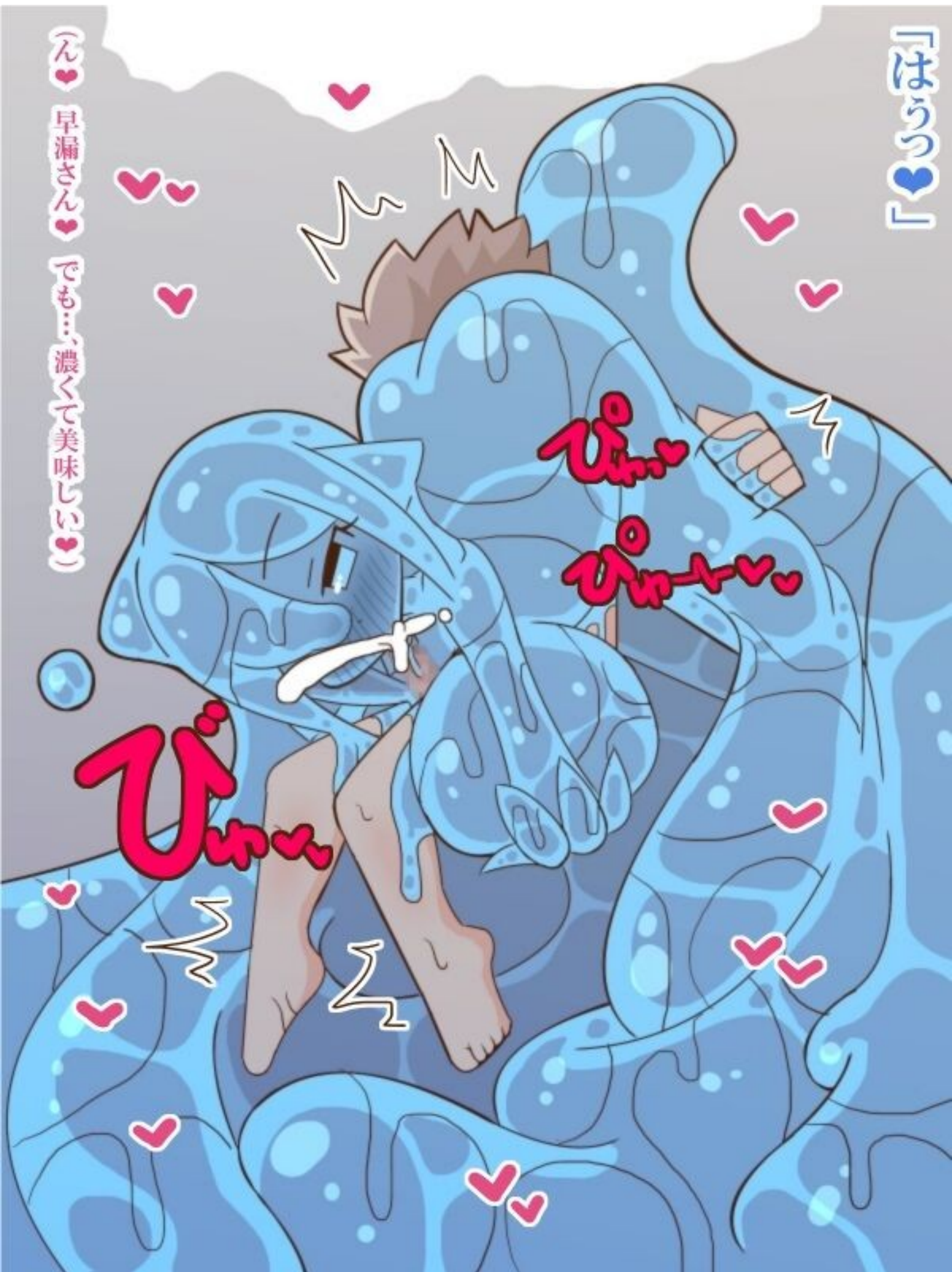
「あひい／＼／＼ な、なになにい！ き、急に地面に穴開いて落ちたと思ったらく！」

(美味しそうな坊や…、捕まえた♡ 落とし穴によるこそ、坊やの精子…、頂戴♡)



「はらっ」

(ん♡早漏さん♡でも…濃くて美味しい♡)



「あああ〜♡ らめええ〜♡ おちんちんぐちゅぐちゅらめええ〜♡」

（ほら…、もっと坊やおちんぽミルクう…、お姉さんのお口の中に…♡）



ちゅん♡

ちゅん♡

ちゅん♡

ちゅん♡

びん♡

びん♡

ちゅん♡ ちゅん♡ ちゅん♡

「あん♡ いや♡ そんな、とこ…
舐めちや…らめえ♡ き、汚い…よお♡

ぬちゅ♡

ぬちゅ♡

くちゅ♡

ぬちゅ♡

くちゅ♡

「そんな事ないよ…お嬢さんの綺麗なピンク色で
ふにふに…とても美味しいよ♡」



「あふあふあふあふあふ〜ん♥」

びく

びく

びく〜

Love

「さあ、お嬢さん♡、このまま私に舐められて、溶かされて死んでおくれ♡」

ぐちゃぐちゃ♡

ぐちゃぐちゃ♡
ぐちゃぐちゃ♡

(やだあゝ〜)

ぐちゃ♡

ぐちゃ♡

ぐちゃ♡



ぢゅわろろろ
ろろろろろ
れろろろ
れろろろ

「ん♡溶けてきた♡美味し♡」

（あ、あついよ！／＼／＼だれか助けて！
このままじゃあ…私、私…♡）

ぢゅわろろろ
ぢゅわろろろ
ぢゅわろろろ

「あ♡もうだめ♡イクううう♡」

「なかにびゅっびゅ♡びゅっびゅ♡」



「お」

「お」



「なかに…、びゆるびゆるでてる♡ おいしい♡」

「お、おお〜♡ しほりとられるう〜♡」



「おお、は、放せええ〜 魔物なんかには、魔物なんかにはいい〜」

「ええ〜？ 魔物なんかには…なにかなく？ おちんちん勃起させて何言っているのかなあ〜♡」



「あひん♥」

「うわ、ざこ♪ ちっとおちんちんぐちゅぐちや弄ったら漏らしたよ、このおっさん」



「ほらあゝ♥ 魔物のおまんこに中出ししていいのおゝ? 赤ちゃん出来ちゃうよゝんゝ♥」

「あひいいゝん♥」



ぐち

ぬん

びん

びん

ぐち

ぐち



「おまんこー!」

「そんなおまんこに弱弱おじさんは、おまんこで食べちゃいます♡
死んで大反省してくださる♡」



